

アートをおく2

2022年9月29日(木)・30日(金)

〈会場〉京都精華大学明窓館内 〈対象〉京都精華大学の学生・教職員35名程度

作品を展示するとき、どうしたら作品をより良く見せられるのか、あるいは何が正解なのか、悩んだことはありませんか？本イベントでは、作家という立場のみならず、作家と協働して美術館やギャラリーでのインストール作業に携わる「インストーラー」のプロの視点から、作品を展示するということはどういうことなのかを考え、実践するワークショップを開催します。作品をうまく展示するテクニックやノウハウは勿論のこと、展示という行為への批評的な観点もまた、アーティストや美術に関わる人間には重要なものです。新しくなった明窓館の各所で開催される本イベントを通して、「表現」への深い視野を養い、みなさんの今後の活動に活かす方法を探ってみましょう。

9月29日 —— 11:00-17:00 —— インストールワークショップ
9月30日 —— 11:00-16:00 —— インストールワークショップ
10月1日-7日 —— 9:00-20:00 —— ビューイング期間

インストールワークショップの成果を明窓館内で継続展示する期間を設けます。

〈申込方法〉



Googleフォームでお申し込みください。35名程度の定員を設けますので、先着順にての決定となります。【締切】2022年9月25日(日)
ビューイングは申し込み不要です。感染症の状況により、人数制限や開催形態の変更などのお知らせを申込者の方にご連絡する場合があります。

京都精華大学 展示コミュニケーションセンター企画

「インストーラー」が、セイカの皆さんの「展示」について考え、協働します

お問合せ | tencomission@gmail.com (担当：宮永亮)

主催 | 京都精華大学展示コミュニケーションセンター

〈ゲスト紹介〉

武田 俊彦 (タケダ 俊彦)

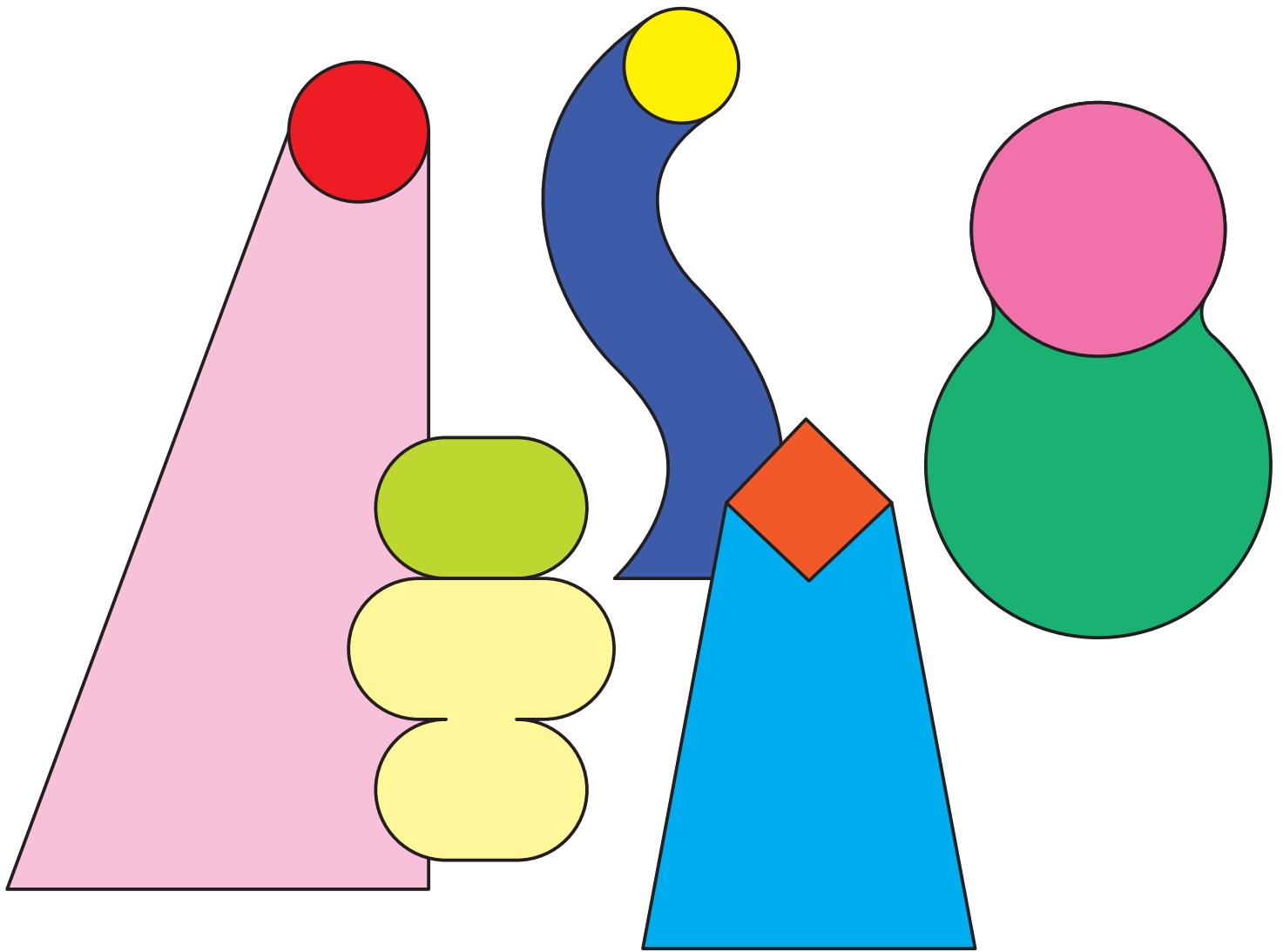
1976年大阪府生まれ。1999年京都精華大学美術学部修了。卒業後、フリーランスの造形師や百貨店等の装飾物制作及び現場施工を行いながら、村岡三郎氏の制作アシスタントとなる。個人としても作品発表を行いながら、京都精華大学、京都造形芸術大学(現・京都芸術大学)などで非常勤講師を勤める。2010年に個人事務所「タケダ事務所」を設立。近年は伊藤 存、中村 裕太のインストールに携わる。

中村 裕太 (京都精華大学芸術学部教員)

1983年東京都生まれ。2011年京都精華大学博士後期課程修了。博士(芸術)。(民俗と建築にまつわる工芸)という視点から陶磁器、タイルなどの学術研究と作品制作を行なう。近年の展示・プロジェクトに「万物資生 | 中村裕太は、資生堂と を調合する」(資生堂ギャラリー、2022年)、「眼で聴き、耳で視る | 中村裕太が手さぐる河井寛次郎」(京都国立近代美術館、2022年)、「第17回イスタンブール・ビエンナーレ」(パリンハン、2022年)など。

齋藤 雅宏 (京都精華大学ギャラリー Terra-S 展示コーディネーター)

1981年山形県生まれ。2007年筑波大学大学院芸術研究科修了。アーティスト/アートコーディネーターとして活動。2007年アトリエ・ワンにてプロジェクトスタッフ。2008年-2020年アーツスペース Kapo(石川県)代表。近年携わった展覧会に、「金沢・世界工芸トリエンナーレ」(2010年-)、「GO FOR KOGEI」(石川県、2021年)、東アジア文化都市2018金沢「宴容する家」がある。2022年5月より京都精華大学ギャラリー Terra-S 展示コーディネーター。



アートをやる2

京都精華大学 展示コミュニケーションセンター企画

表現活動することは、生きていくことと
どのように関係しているのでしょうか？

2022年10月7日(金) 17:30-19:30

〈会場〉京都精華大学明窓館2F エントランスホール 〈対象〉京都精華大学の学生・卒業生・教職員50名程度

「アートをやる」ことは「生きる」こととどのように関連しているのでしょうか。表現活動をしたり、作品制作をしたりしながら生きていくとは、具体的にどのような暮らしを送ることなのでしょうか。「アートをやる2」では、左京区を中心とし、それぞれにユニークな活動や暮らしをし、かつ、場や価値観、アートや音楽を共有しながら緩やかに繋がる方々にお話をうかがいます。昨年度の「アートをやる」で表現活動に関する個別相談に応じ、幅広い表現についてレクチャーを行ったインディペンデントキュレーターの長谷川新さんにコメントも頂き、これから「就活」をしたり、やりたいことをあきらめたりするかもしれない本学の学生のみなさんが、何らかのヒントを得られる座談会をめざします。

17:30-19:00 座談会

19:00-19:30 JAPABRAS4+によるライブ演奏

Beneさんと、本学メディア表現学部音楽コース非常勤講師・斉藤聖治さんのバンドJAPABRAS4に学生有志が加わるアコースティックライブ

〈申込方法〉



Googleフォームでお申込みください。50名程度の定員を設けますので、先着順にての決定となります。**締切 2022年10月6日(木)**
感染症の状況により、人数制限や開催形態の変更などのお知らせを申込者の方にご連絡する場合があります。

〈座談会登壇者〉

小原直樹 (画家・ごみ収集などのアルバイト)

谷垣安子 (訪問看護ステーション事務職員)

中島勇 (写真家・ごみ収集業契約社員)

平井誠 (ごみ収集業社員)

Bene (シェフ・ミュージシャン・スポーツインストラクター)

〈コメンテーター〉

長谷川新 (インディペンデントキュレーター)

1988年生まれ。京都大学総合人間学部(文化人類学専攻)卒。主な企画に「無人島にて-「80年代」の彫刻/立体/インスタレーション」(2014、京都)、「パレ・ド・キョート/現実のたてる音」(2015、京都)、「クロニクル、クロニクル!」(2016-17、大阪)、「不純物と免疫」(2017-18、東京、沖縄、バンコク)、「STAYTUNE/D」(2019、富山)、「グランリバース」(2019-、メキシコシティ)、「約束の凝集」(2020-21、東京)など。PARADISE AIR ゲストキュレーター。相談窓口 SNZ(シノバス)を2021年に開設。

モデレーター | 緒方しらべ(京都精華大学 国際文化学部教員)

お問合せ | tencomission@gmail.com(担当: 緒方しらべ)

主催 | 京都精華大学展示コミュニケーションセンター

本企画は、京都精華大学個人研究奨励費「アーティストとして生きるために」の助成を受けています。